

目的：地域公共交通の利用促進と最適化を図る

- 観光・イベントに関する情報配信や、MaaSアプリを活用した割引チケット付デジタル乗車券など、移動と目的を組み合わせたサービスの提供により、移動需要を喚起し公共交通の利用者増加を図る
- 膨大な各種移動関連データの集約・分析を行えるデータ連携基盤を利用し、市町村域をまたいだデータの分析結果を市町村や交通事業者が共有できる環境を構築する

事業内容：MaaSの普及・データ利活用による交通動態分析

【① MaaS導入の実証】

- 九州MaaSの枠組み等を活用し、市町村、交通事業者等で構成するエリアMaaS検討会議において、公共交通の利用促進や利便性向上につながる特典付き乗り放題チケット等をMaaSアプリ「my route」上で企画・販売した(3券種)。

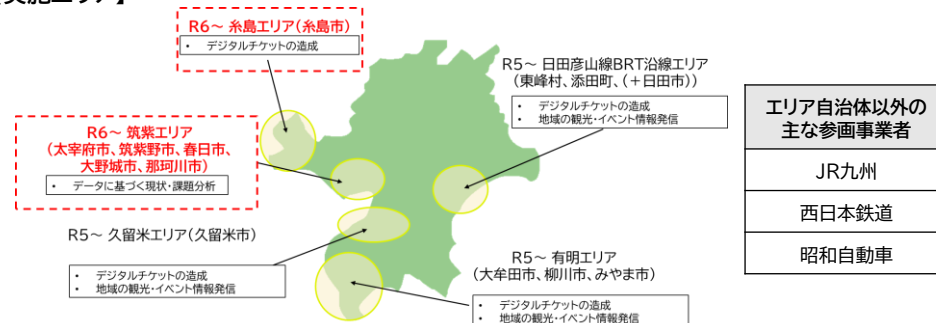
【② データに基づく現状・課題分析フレームワークの開発】

- 市町村域を跨ぐ広域エリアにおいて、対象地域の流入状況、移動や滞在傾向、モビリティ利用状況等の可視化を行い、地域交通の課題を分析するためのフレームワークを開発した。
- 鉄道、路線バス、コミュニティバス等の乗降実績や属性情報、運行実績等のデータ仕様を統一し、ダッシュボードでの統合分析を可能とするプロトタイプツールを準備し、人流データを組み合わせることで、地域内の移動需要の把握や、公共交通分担率の向上が見込める地域の抽出を実施し、路線再編やMaaSの導入等の検討に活用した。

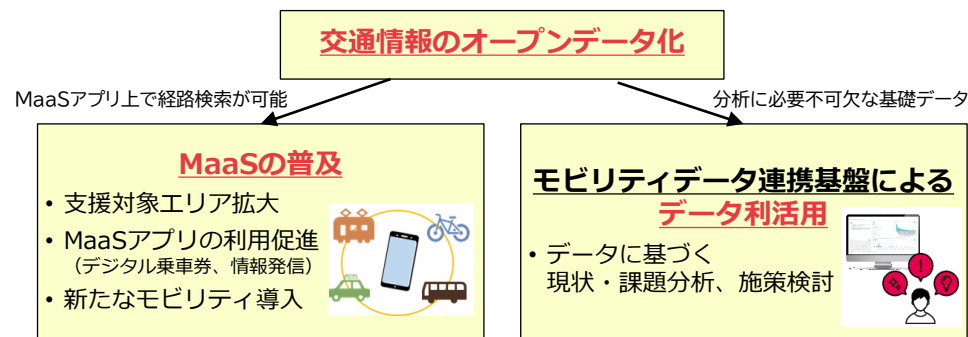
効果

- 課題：需要と供給が一致した効率的な交通網を形成する必要がある。
- 効果：これまで交通事業者から限定的な方法で提供されていたデータではなく、自治体の分析目的に応じたデータが閲覧可能となった。県が複数自治体による協議の場を設定したことで、地域全体における交通最適化の検討が可能になった。

【実施エリア】



【本事業の取組の全体像】



【課題分析・可視化プロトタイプツールの画面】 【検討会の様子】

